

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203048		
法人名	藤原不動産株式会社		
事業所名	グループホームいこい (第1ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市児島赤崎4丁目5-28-8		
自己評価作成日	平成 24 年 11 月 27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3370203048-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3370203048-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25 年 1 月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方と職員が共に生活し、まず入居者の方に向き合うこと。そして、すぐ手伝うのではなく、自発的な行動を待つこと。日常の些細なことを見逃さず気づくこと。これらを大切にしていきたいと、日々のケアに取り入れるようにしています。在宅で行っていた当たり前のことが当たり前で継続できるよう、玄関は施錠せず、入浴は夜に入れるよう、外出の機会を多く設け、お客さんが訪ねてきやすいような環境づくりに努め、これらが日々の暮らしの中で実現できるよう職員もいろいろ工夫しています。住宅地の奥にあるので散歩等しやすく、住みよい環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置し平屋で2ユニットの事業所である。家族や近隣住民が気兼ねなく訪問できるよう施錠はしておらず、バリアフリーの玄関には児島ならではの動力ミシンや季節の生け花、観葉植物、壁には桜の絵画が飾ってあり華やかな雰囲気である。フロアの天井は吹き抜けて天窓もあり、とても明るい。感染症予防のため、加湿器を利用した湿度管理や清潔保持を徹底している。利用者は午前中、それぞれに昼食の下ごしらえを手伝っており、とても生き生きとしている。私達が事務所で話をしているとき、利用者が職員と一緒にコーヒーを運んでくれた。まるで自宅に招いて下さったように笑顔でおもてなしをして下さり、温かい雰囲気を感じた。職員は利用者の希望を取り入れ夕方から入浴する等、利用者主体の支援を行っている。また、職員一人一人の責任感とそれぞれの役割分担など、開所10年間の日々の積み重ねがあり、チームワークの取れた支援が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を皆で共有し常に念頭において日々のケアで実践するようにしています。	年度初めのミーティングにて理念について話しをし、新人職員に対して入社の際に研修を行うことで、理念を共有している。日々の支援において利用者の自発的な行動を待つという姿勢を心がけている。また、利用者のそばにいて、体調や心の変化など感じ取り、支援をおこなっている。	「共に生活する」=向き合うこと、待つこと、気づくことという理念に沿って、今後も利用者寄り添ったケアを続けてほしい。日々の積み重ねで大家族のような温かい雰囲気ができている。10年間のすばらしい経験を今後活かしてほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、町内の草取りに入居者の方と一緒に参加させて頂いています。散歩の時に声かけして頂きお花を下さったりもします。お祭りにはお神輿を見に行ったり、寄って下さったり入居者の方も参加させて頂いています。	町内の清掃活動や季節行事に利用者と一緒に積極的に参加し、地域の方との交流を図っている。祭のときには子供会のお神輿が事業所まで来てくれており、利用者も楽しみにしている。近隣から入居されている利用者も多く、近所の方々とは顔見知りでもあり、散歩の途中で会話する姿も見られる。時には、花や野菜の差し入れもある。	近くの小中学校や幼稚園との交流も今後検討していくのはどうだろうか。地域に住む認知症高齢者への理解や関心など、今後の子供たちのためにも地域へ貢献してほしい。認知症になったとしても、専門の知識を持った支援があれば、豊かに暮らすことができること知ってもらいたいと願う。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内の行事に参加させて頂くことで認知症への理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告し参加者からご意見や案を頂きサービス向上に向けて努力しています。	2か月に1回、定期的開催している。町内会長、地域の消防団、民生委員、地域包括支援センター、家族等が参加している。職員が行った研修の内容や外出イベントの写真、季節行事についてなどお知らせを行い、参考意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス上の不明点など市町村担当者に相談するようにしています。地域包括支援センターの方も運営推進会議に参加しているため相談し意見交換を行っています。	提出書類等、直接市町村窓口へ持参し、不明な点など質問するようにしている。地域包括支援センターとは密に連絡を取りあい、情報を共有している。地域包括支援センターからの依頼で認知症の勉強会を開催したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・玄関の施錠については開設当初から行っていません。身体拘束の内部研修も行ってありますが、全職員、しないことが当たり前と思っています。	職員全員が身体拘束はしないことが当たり前だと認識しており、それを前提とした支援を行っている。玄関や窓にも施錠しないことで実際に利用者が屋外に出られるが、フロアに職員が必ず一人は配置し、外に出られたら一緒に庭を散歩したりするなど対応している。家族にも説明し理解を得ている。内部・外部研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングで話し合いを行っています。またカンファレンスでも話し合いを持つようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる方には管理者がご家族の方へ制度の説明をしています。現在、成年後見人制度を利用されておられる方もいらっしゃるので職員にも随時、説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明し、疑問や不安等をお聞きし、納得していただいた上でサービスをご利用していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方の意見、要望については出来る限り実現できるよう努めています。ご家族の方については相談しやすいような関係を作る為、手紙や電話でご連絡し面会時には必ず声掛けをするようにしています。	職員は利用者寄り添うケアを実践し、一人一人の意向を聞くようにしている。家族には1カ月の生活の様子や受診時の医師のコメント、体調等について担当者がまとめ、報告をしている。面会時に家族に意見や希望を聞いているが、意見が挙がらない場合が多いので、いくつかの選択肢を用意し、具体的に要望を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の入居者の方への気持ちを大切にし意見、要望については出来るだけ実現できるようにしています。全体ミーティングを行ったりユニットごとの話し合いを行いコミュニケーションを図るようにしています。	日ごろから代表者と職員はコミュニケーションを図っている。職員が必要としている物品など意見を取り入れ購入を検討するなど、職員の意見や提案を受け入れている。年1回程度、個人面談を行い、直接要望や意見を聞き、できる所は反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が意見をすることによって職員が入居者の方に対してやりたいことが出来なくなるのではないかと思います管理者やリーダーに任せ出来るだけ長く続けて勤務できるように改善や条件の整備等に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては出来るだけ多くの職員が参加出来るように勤務調整を行っています。内部でも年間でテーマを決めて行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会を作る為外部研修に参加してもらい交流を図るようにしています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の方やケアマネから情報をお聞きできる場合はお聞きし、できるだけご本人に施設の見学をしていただくようにしています。サービスへの受入が悪い場合は何度も訪問しご本人の不安を軽減できるようお話をお聞きするようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度かお会いしたり、電話でお話をし、今の介護の状況や問題点、要望などをお伺いし、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や思い、ご家族の方の思いをお聞きするよう努めています。サービスがすぐにご利用いただけない場合も相談に乗るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をするということが基本の理念なので常に心がけ、気付きにつなげる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	玄関を施錠しないことによって面会がしやすい環境を作るとしたり、面会を促すように働きかけをさせて頂いています。またご本人の現在の状態も随時、ご家族に報告し情報の共有を図るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方にもご協力いただきご本人の馴染みの方との関係が途切れないよう面会を支援しています。	近隣から入居されている利用者も多く、近所の方々との交流は続いている。家族や知人などに気兼ねなく訪問してもらえよう、雰囲気作りやおもてなし等配慮している。ドライブで住まれていた住居や所有する畑に行くこともあり、利用者は楽しみにしている。また、日頃から思い出話ができるよう、家族に昔の写真など持って来てもらえるようお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で分担しお互いに出ることをしていただき協力して出来るように援助しています。また孤立しないように職員が間に入って会話を調整するようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に何かあればご相談くださいとお話しています。また退去されたご家族の方がボランティアとして月1回お茶会をして下さったりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちは常に把握するようにしています。また日々の生活の中で言葉や表情で思いを汲み取り、どのようにしたら、その方のために一番良いのかを常に考えています。またご家族の方から意見を聞くようにしています。	利用者一人一人の体調や心の変化などを常に記録に残すことで職員で情報を共有している。担当職員を決め、きめ細やかに寄り添うケアを実践している。日常のさりげない会話の中から要望をくみ取るように心がけている。「図書館に行きたい、〇〇が食べたい」という何気ない利用者の思いをできる限り反映し、実現するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や、ご家族の方、担当ケアマネの方からも情報を頂き、入居後は会話の中で把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員の心身状態を踏まえ、個々一人ひとりの出来ること出来ないことを把握し、日々の生活の中で他に出来ることはないかと気づけるように記録等を残していくようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当や計画作成担当者がご本人、ご家族の方から要望をお聞きし、ご本人が、今何を一番必要とされているかを検討し、また主治医・看護師からも意見を聞き、全職員で意見交換を行い介護計画を作成しています。	計画作成担当者と担当がご本人の意向をもとにニーズを出して管理者の意見も取り入れ、全職員で話し合いを行っている。体調に応じて医師や看護師からの指示も仰いでいる。家族からの要望も取り入れている。機能維持を中心にプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、職員間での申し送りはもちろんですが、月に1度、担当と看護師が入居者の方の個々の生活の情報をまとめ、ご家族の方にお送りしています。またそれを他の職員も共有し意見交換を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要と思われることはすぐ対応できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域の方に参加していただくことによって、地域でのくらしや地域の人との付き合いが発展しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人、ご家族の方とかかりつけ医について相談しています。通院についてはご家族の方にも協力して頂き、状態変化時はすぐにご家族の方へ連絡し受診後も報告をしています。主治医へは常に指示を仰ぐようにしています。	入居時に本人、家族の要望を聞き、かかりつけ医を決めている。2名の看護師を配置しており、一人一人の体調管理、医師との連携、異変時の対応や家族への報告等、看護師を中心に細やかに行っている。24時間いつでも協力医療機関と連絡ができ、医師と看護師がすぐにかけつけてくれる体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、常に健康管理を行い、気になることがあればすぐ看護師に報告し、主治医に報告を行い指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに治療が受けられるよう情報提供を行い、治療の説明をご家族の方と聞き、主治医に報告しています。また入院中もお見舞いし、入院先やご家族の方からも情報をいただき退院にむけて病院関係者と相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の説明をご本人やご家族に行っています。また常に入居者の方の状態変化に応じてご本人やご家族にお話し、要望をお聞かせいただき、その旨をふまえ主治医に相談しています。	看取りについて本人や家族の希望を聞き、随時相談しながら対応している。病気による体力低下や体調悪化により、医療的処置が必要となり入院加療となる場合もある。職員は外部研修で重度化や終末期の支援について学び、事業所で報告をしている。ホームで看取りをした経験もあるが、利用者や職員への影響が大きいのも事実である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から1人ひとりのリスクに関しては職員全員が把握しているようにしています。初期の対応についても適切に行えるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回以上夜間を想定し避難訓練を行っており、その内の一回は消防署の方や消防団の方の立会いのもと、ご近所の方にも協力していただいて避難訓練を行うようにしています。火災通報装置にご近所の方を登録させていただいています。	年4回夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、地域の消防団からも助言を受けている。施設内はスプリンクラー設置済み、火災通報装置あり、近隣に住む職員は有事には駆けつける訓練をしている。通報装置には近所の方に協力頂き、電話番号を登録している。ハザードマップを玄関に掲示、津波対策も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護が必要な場面では入居者の方に寄り添い小声で声かけするようにしていますが、耳が遠いためだんだん声が大きくなってしまいうので居室に帰って頂き再度声するように気をつけています。	家庭的な雰囲気の中でもプライバシーには配慮をしている。利用者に合わせた声掛けを行うよう、職員同士でもチェックし、自分の親だったらどう思うかと振り返りながら考え、失礼のないよう接している。接遇の外部研修にも参加し、職員間で周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のくらしの中で、思いや希望を聞くようにしています。表情やしぐさでもその時の思いや希望を読み取るようにしています。その場面場面で選択肢を上げ、自己決定が出来る場面を作り、自発的な行動を待つようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方の個人個人のペースにあった暮らしが送れる様心がけていますが外出の支援すると職員がそれに合わせた動きをする必要があるのでペース通りにできないこともあります。食事を弁当等に変えるなど工夫していますが希望に添えないこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べない方は好みを把握しているので、それに合わせて職員が声かけし選んでいただいています。お化粧の好きな方はお化粧がいつまでも出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり得意な事を皆で分担し、また出来そうだと思ったら挑戦してもらうようにしています。メニューは入居者の方と相談し買い物と一緒に持って旬の野菜を購入したり、畑の野菜を収穫してメニューに取り込み楽しみを増やすようにしています。	利用者はその日の昼食と夕食の準備を手伝っている。野菜を切る、庭の野菜を収穫に行くなど自然に行われている。訪問日はハウレンソウのまびき菜を使ったお浸しが食卓に上がっていた。3食手作りで献立も職員と利用者で意見を出し合い、買い物にも出かけている。料理本やテレビのお料理番組を見て、献立を決めることもあり、突然献立が変わることもある。利用者の希望や気分転換もあり、外食も企画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては好評で食が細い方も入居されると食べる量が増えすぎるほどです。個人のトータル水分量・食事を把握し体重管理を行い、またその日の体調に合わせて水分量や食事を調整し、個人個人のご病気に必要な栄養も主治医に相談し調整しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で磨いていただき職員は見守りをしています。磨き残しがある方は介助しています。ご本人の訴えや食べ物の飲み込みの状態、その他の気づきで、歯科治療が必要か看護師と見極めていきます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄能力を大切にす為、時間誘導するのではなく、訴えを待ったり、その日の体調に合わせた誘導を行っています。またパットの使用を常に見直しをしたり、利用者体験を通してオシメの不快さを職員が体験するようにしています。	本人の水分摂取量や様子、当日の気温など考え、声かけや誘導する時間を早めに行うなど調整を行っている。オリゴ糖入りヨーグルトドリンクや具だくさんの味噌汁、きなこ牛乳、マッサージ、運動など看護師と一緒に一人一人にあった排便コントロールを探し、自然排便を促すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合わせた水分量が摂れるようにし、水分が摂れない方はチェック表を作成しています。運動や便秘に効く食材も活用しています。お薬に頼らず自然排便を促すことにより、トイレでの排便ができるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っていますが、入浴がお好きでない方には1日おきに入浴をしていただくように声かけをしています。夕方以降に入浴していただけるようにし、また排泄失敗があれば、すぐ入浴していただけるようにしています。	利用者の希望により毎日16時から18時30分まで入浴を支援している。毎日入浴する方や1日おきの方など、個々の希望や体調により特に曜日を定めず、支援している。大晦日には全員、夕方に入浴し、紅白歌合戦を見て、年越しそばを食べるのが恒例となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯や起床時間を設けず、好きな時間に寝起きしていただいています。夜遅くまで起きている方は、TVをみたり職員とお茶を飲みながら話をしたり過ごされています。不眠の方に関してもお薬を使用せず眠れるよう、個人に合わせた支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更時は記録・報告し全員が把握するように努めています。副作用の可能性のある薬は別に記録を作り主治医に報告しています。個人ファイルに最新の薬の処方箋を更新し確認できるようにしています。確実に内服して頂くため職員が確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の楽しみに合わせて、昔されていたことを継続できるように支援しています。(ミシン、草取り、畑仕事等)日々の生活の中で外出支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩しています。またドライブや買い物、外食等希望に沿うように支援しています。	ホーム所有の車が3台あり、目的に応じて少人数でも大人数でも対応できる。小旅行や外食、買い物にも出かけている。誕生日には家族も呼んで食事会を楽しむこともある。天気の良い日には近隣の散歩や玄関先の掃除、花や野菜の手入れなど行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はなるべくご自分で管理できるようご家族の方に働き掛けています。管理ができない方に関してはお預かりし、外出の際にご本人が使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける方はご家族の方へ手紙を書いて頂き、やり取りができるよう支援しています。ご家族の方や知人の方に電話でお話もできるよう援助させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてちぎり絵をつくって飾るようにして季節感をだすようにしています。またディスプレイにも工夫しお雛様や兜・七夕かざり・ツリー・正月飾り等飾っています。お客様が来られても心地よい空間を提供できるよう臭い等にも気をつけています。	フロアは床暖房や空気清浄機、加湿器設置による温度、湿度管理の徹底、臭い対策など配慮されており、居心地のよい空間となっている。利用者に合わせ、危険のないよう家具等の配置も工夫している。こたつ部屋が用意されており、仲のいい利用者同士、みかんを食べたり、一緒にトランプを楽しむこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外と中やウッドデッキにソファや椅子、テーブルを設置し、気の合った入居者同士でお茶を飲みながら過ごせる空間を作っています。寒いときには和室でこたつに入ってテレビをみたり、カラオケができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の方と相談し以前からご本人が使われていた家具や物を持ってきていただいています。転倒の危険がある方が多く、安全を考慮した居室の家具の配置になってしまふことがあります。	自宅で使っていた馴染みの家具やぬいぐるみ、家族の写真など自由に持ち込みができる。好きな歌手のポスターや写真、手作りのちぎり絵を飾ったり、個々にレイアウトを楽しんでいる。備え付けで電動ベッド、タンスが用意されている。利用者の身体状況に合わせて、安全を考慮した配置を相談し、対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせて危険な場所は改善するようにしています。安全面も考慮しますがそれに合わせてしまうと他の入居者の方の居心地の良い空間が無くなる可能性があるので配慮して環境作るようにしています。		